

天文 3

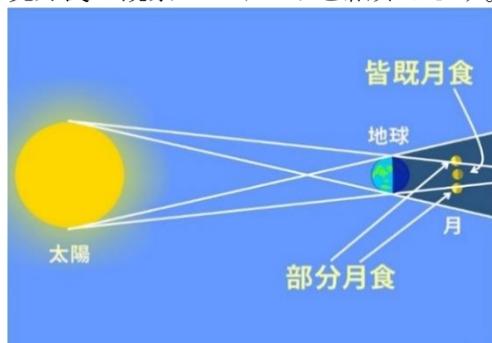
「3 年ぶりとなる皆既月食」

天文担当 鈴木 淳

■ 皆既月食を鹿児島で観察するには



今年の天文イベントで一番の注目は、3年ぶりとなる皆既月食が5月26日に起こることです。そこで、鹿児島市役所（東経130度33分25秒、北緯31度35分49秒）を基準として、今回の皆既月食の観察のポイントを紹介します。



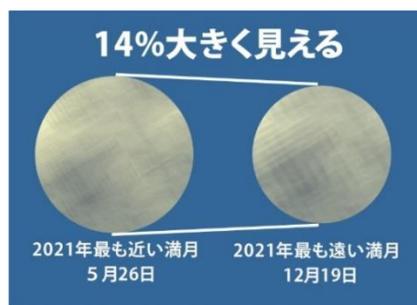
地球や月は太陽の光を反射し、輝いています。物体に光が当たると、その反対側には影ができるので、輝く地球の反対側は暗い影となり、地上では夜になります。図のように、太陽-地球-月が一直線に並んだとき、地球の影は、月まで伸びて月の輝きも隠してしまい、月が欠けて見えます。これが「月食」です。そして、月食の中で地球の影に完全入った月食を「皆既月食」といいます。

令和3年5月26日は、東の空から月がほぼ欠けた状態で昇ってきます。月が完全に地球の影に入る「皆既月食」は、20時9分ごろになります。しかし、この時、月は地球の影に入っても真っ暗になるわけではありません。実は、太陽光の一部は地球を回り込み、地球の大気で屈折しながら通

過します。そのため、その光は暗いスポットライトのように月を照らします。波長の長い赤い色だけが反射して見えるため、皆既月食では赤く染まったように見えるのです。この見え方は、大気中の水蒸気の量やちり、ほこり、または火山灰などの影響で見え方が違うため、今回の皆既月食がどんな見え方をするのかも確かめたいポイントの1つです。

また、皆既月食の見逃さないようにするための注意すべきポイントがもう1つあります。それは、事前に東から南にかけての水平線が見渡せる場所を見つけておくことです。今回の月食は「皆既」になるとき、高度が13度しかありません。腕を水平に伸ばして拳を握ったとき、その拳の高さがおおよそ10度ですから、高度13度がいかに低いかわかれると思います。また、「皆既」の時間が、おおよそ19分と短いので、事前に観察に適した場所を見つけておくと、慌てず観察できると思います。

■ スーパームーンの皆既月食



今年の皆既月食は「スーパームーン」の月食でもあります。「スーパームーン」とは、一般的に1年のうち、地球との距離が最も近く、最も大きく見える満月のことです。地球と月との距離が一番遠いときの月に比べて14パーセントも大きく見えると言われていいますので、迫力ある皆既月食を楽しめると思います。